

2019年度 優秀論文表彰式

2020年3月25日、経済学部第一会議室において優秀論文表彰式が行われました。優秀論文3本と最優秀論文の執筆者に賞状と副賞が授与されました。



前列左より李さん、阿部さん、柳澤学部長、黛さん、松崎さん
後列左より井原先生、宮崎先生、石田先生、今泉先生

最優秀論文賞（経済学会賞）

黛紘汰（石田ゼミ）「税効果会計による利益調整とコーポレート・ガバナンスの関係」

本論文は、コーポレート・ガバナンスの観点から、税効果会計をめぐる経営者の機会主義的な行動を抑止する指針の提示を目指したものです。繰延税金資産の回収可能性を判断する際に経営者の裁量が介入していることや、役員による自社株保有が利益調整を抑制するコーポレート・ガバナンスであることを明らかにしたところに、学術価値と実務的有用性があると高く評価されました。各種データの抽出と分析手法も説得的であると好評でした。

優秀論文賞（経和会長賞）

李東雨（井原ゼミ）「日韓百貨店におけるオムニチャンネル戦略」

本論文は、オムニチャンネル化が進んでいる韓国の百貨店と遅れている日本の百貨店を

比較し、その現状と原因を探ったもので、韓国百貨店ではグループ組織の統合、ショッピング環境の整備などがオムニチャンネル化を進めている要因であることを明らかにしました。資料の丁寧な読み込みと約400人の日韓消費者へのアンケート調査が高く評価されました。

優秀論文賞（経和会長賞）

阿部歩（宮崎ゼミ）「地域社会における相互扶助に関する研究：JGSS2012の分析から」

本論文は、人々が地域社会における相互扶助をどのように捉えているのか、またどのような人が相互扶助に積極的なのかを、国内の代表的な社会調査であるJGSSのデータを利用して明らかにしたものです。「町内会・自治会等への参加頻度」などの説明変数を順序ロジスティック回帰分析を用いて分析し、先行研究にない新たな知見を導いた点が高く評価されました。

優秀論文賞（経和会長賞）

松崎達也（今泉ゼミ）「ドラッグストアはどのような発展を遂げてきたのか：流通史における意義と将来性の考察」

本論文は、マツモトキヨシを主な事例として取り上げ、ドラッグストアの発展と革新を流通史の中で評価したものです。取引相手である化粧品メーカーの刊行資料や当時の新聞・雑誌記事などの資料収集や、これまで流通史に正當に位置づけられてこなかったドラッグストアの発展を解明した点や、説得的な論理展開が高く評価されました。